

⑬史上最大の番狂わせ（NHK「逆転人生」）

2020年12月07日

史上最大の番狂わせの試合といたら、そう5年前のワールドカップ・イングランド大会の予選リーグ南アフリカ vs 日本の試合（2015年9月19日）をおいて他にない。

この試合の逆転トライはどうやって生まれたか、それは最後までトライを獲ることに固執した戦術が功を奏したことは言うまでもありません。実はエディ・ジャパンがこの大金星を得ることとなった裏に、一人のスポーツ心理学者がかかわっていたことをご存じだろうか？

2020年12月7日放送のNHK「逆転人生」でこのラグビー・ジャパンに関わっていた荒木香織さんが、心を鍛えるスペシャリストとしてエディ・ジョーンズ HC が率いるジャパン代表に帯同することによってもたらされたとお話が紹介された。

それまでのジャパンチームのラグビーワールドカップでの戦績は1勝21敗2分。ワールドカップの常連とは言え、決して誇れる戦績ではありません。それまでは代表に選ばれた選手でも、「どうせ勝つのは無理だろう、負ける理由ばかりを探していた」と広瀬俊朗選手も過去を振り返ったインタビューでもそう答えていた。

この時のジャパン代表のメンタルでは勝てない、と判断したエディさんは、初めて代表にスポーツ心理学者を付け、練習から試合まで戦う選手のマインドをしっかりサポートする、という体制をエディ・ジャパンは取り組んだ。荒木さんは、米国ノースカロライナ大学院にてスポーツ心理学を専攻、英語も堪能であったことが奏し、エディさんとも積極的に意見交換をし、時にはHCにも厳しい意見を言ったとか。

練習に参加してまずはチームメンバーの言動をつぶさに分析した。「ミスをした選手に対して批判的な声を上げる」、「コーチがなぜそのプレーを選択したのか？と問うと、直ぐに謝ってしまう」、「コーチがプレーに対して褒めても自信をつける機会となっていない」など、選手のメンタルがことごとく空回りしていた。

荒木さんは、「選手に自信を持たせるために何を伝えたらいいのか？」と考え、取り組んだ活動が、「世界で戦うチームならば、建設的な意見交換や自由な会話が選手同志の間であってもいいのでは」ということで、選手に対して次のように行動をするように伝えた。

「勝ったらどんな世界が」、「勝つチームはどんなことを考えるのか」、「代表の誇りは」と矢継ぎ早にモチベーションを高く保つためのキーワードを伝え考えさせ、先週同志互いに「良かったこと、できたことを意識し合う」ようにフィードバックを徹底させた。良いプレーは褒める→褒められれば選手にインプットされる→そしてチーム内に共通意識が生まれる、といわゆるプレーヤーのマインドに良い循環の発想が生まれ、プレーの質、チーム内での共通意識が高まる、という風に選手間の気持ちを前向きにすることができた。

あの試合残り時間がない中、南ア 32-29 日本の局面。南アのゴール前で日本が反則を獲得。PGを狙えば32-32の同点、でもスクラムを選択。その後トライを獲り逆転。そのスクラムを選択する際にFW トンプソン・ルーク選手は、「歴史を変えるの、誰!!」と吠えた。そうです、この言葉が生まれた背景に、スポーツ心理学者の思いが選手にスクラムを選択させたのです。勝つためには、「選手のマインドセットが如何に重要か」ということを。